

## 令和4年度 NBRP 広義キク属運営委員会議事録

開催日時：令和4年12月16日（金）

会議形式：Zoomによるオンライン会議

### 【第1部】13:00～14:00 広義キク属研究セミナー

「キクの白さび病抵抗性を選抜できる DNA マーカーの開発」

講演：住友 克彦先生

所属：農研機構野菜花き研究部門 野菜花き品種育成研究領域 上級研究員

キク研究者を中心に育種現場に近い方にも多く参加いただき、44名がオンラインで参加した。キクの重要病害である白さび病に関してキクタニギクのゲノム情報を活用してファインマッピングを進めて有用な DNA マーカーの開発と候補遺伝子決定を行った例が紹介された。開発された DNA マーカーはアリエス由来の抵抗性遺伝子座の選抜に利用可能でありキク属の育種に役立つと期待される。

### 【第2部】14:15～16:15 NBRP 広義キク属運営委員会

【出席者】敬称略

運営委員

柴田 道夫（委員長・東京大学）、久松 完（農研機構）、増田 優（東海大学）、奥村 義秀（愛知県農業総合試験場）、松田 一彦（近畿大学）、佐藤 豊（国立遺伝学研究所）、中田 政司（富山県中央植物園）、樋口 洋平（東京大学）、橋口 正嗣（宮崎大学）、石黒 康平（イノチオ精興園株式会社）、篠山 治恵（福井県立大学）

分担機関（高知大学）

中野 道治（分担機関課題管理者）

代表機関（広島大学）

草場 信（代表機関課題管理者）、谷口 研至（研究者）、秦 東（研究者）、長島 由美（事務局担当）、信澤 岳（オブザーバー）、日野 浩恵（広島大学経理担当者）

NBRP

田畑 哲之（NBRP プログラムオフィサー）鈴木 智広（NBRP 事務局）、高祖 歩美（NBRP 広報室）

オブザーバー：

齋藤 正明（文部科学省ライフサイエンス課）、土井 智香子（文部科学省ライフサイエンス課）、古田 和輝（文部科学省ライフサイエンス課）、住友 克彦（農研機構）、川本 祥子（国立遺伝学研究所）

## 1. 第5期課題実施計画について（広島大学 草場）

- ・5期課題採択にあたって評価委員会から出された留意事項について説明した。
- ・収集についてはモデル系統 80 系統、野生ギク 70 系統、ゲノムリソース 50 系統を目標としている。
- ・リソースの保存に関しては、個体リソースは現状とほぼ同数の 3000 系統とし、種子保存を増やしていく。ゲノム DNA は約 50 系統を目指す。
- ・個体リソースのバックアップについては、令和 4、5 年度は高知大と富山中央植物園で平行して行い、令和 6 年度より高知大学に一本化する予定である。ゲノムリソースについては、4 期より引き続き宮崎大学で行う。
- ・第 5 期では品質確保とさらなる高度化に努める。付加価値情報としてリシーケンス情報や、網羅的遺伝子発現データセット、メタボロームデータ、保存系統の開花や形態に関する特性情報などを充実させ、植物体リソースと情報リソースの整備活用を推進する。
- ・種間ナチュラルバリエーションを利用した研究を進め、情報リソースの充実と魅力的なリソースを増やし利用例を示すことで論文数増加につなげていきたい。

## 2. 令和 4 年度業務進捗状況（広島大学 草場）

- ① リソースの収集
  - ・植物体リソース 25 系統、ゲノムリソース 10 系統を目標としており、ほぼ計画通りに進んでいる。
- ② リソースの保存・バックアップ
  - ・個体リソースのバックアップは高知大と富山中央植物園、ゲノムリソースのバックアップは宮崎大学で行われている。
- ③ リソースの提供
  - ・個体リソース 182 系統、利用者数 35 名と目標としているが、現時点で 189 系統（うち海外 11 系統）、利用者 35 名で目標を達成している。
- ④ 品質確保・高度化
  - ・広義キク属 3 系統のメタボローム情報とキク属 3 系統のリシーケンス情報の収集を目標とした。メタボローム情報は遺伝研の櫻井先生により情報公開済み。リシーケンスは高知大で進めている。
- ⑤ 事業の総合的推進
  - ・学会発表や国内・国際学会での宣伝を通じて新規ユーザー開拓を目指すことを目標としている。今年度は南京農業大学のオンラインシンポジウムの参加、植物学会でのポスター展示、日本分子生物学会での実物展示を行った。

## 3. 令和 4 年度業務進捗状況（高知大学 中野）

- ① リソースの収集
  - ・高知県産野生種を中心に 5 系統を目標としている。シマカンギク 2 系統などを収集済み。Artemisia 属などについては検討中で、引き続き進めていく。

- ② リソースの保存・バックアップ
  - ・栽培、保管スペースの整備を行い、順調に整ってきている。
  - ・5月に約300系統を受領し、環境に対する適性は問題ないことが確認できた。今後は系統の追加や挿し芽などによる増殖を行う予定である。
- ③ 品質確保・高度化
  - ・リシーケンスデータを活用したDNAマーカーの設計を進めている。
- ④ 事業の総合的推進
  - ・育種学会四国談話会で発表を行った。
  - ・牧野植物園との連携は引き続き模索していく予定である。

#### 4. 広義キク属研究 最近の話題

(高知大学 中野)

- ・広島と高知の開花日調査の結果やその他研究の成果などについて紹介した。

(広島大学 草場)

- ・海外における広義キク属の全ゲノムシーケンスの動向について説明を行った。
- ・キクタニギクの各種変異体について紹介した。

#### 5. その他

なし

以上